

静中・静高
関東同窓会
会報

93期
阿部
哲也



静中・静高関東同窓会の2015年総会・懇親会が、7月3日（金曜日）、東京日比谷の日本プレスセンターで開催されました。ご来賓の4名の皆様 本部同窓会長 鈴木與平様、本部事務局長 三浦俊一様、静岡高等学校副校長 斎藤直治様、野球部後援会長 阿部裕之様を含む190名の皆様のご来訪を賜り、盛大かつ好評のうちに、執り行う事が出来ました事をご報告致します。

思えば、昨年5月に同級生からの連絡で、1年先輩の92期の皆様との初回の打ち合わせに参加した5月29日（木曜日）に全てが始まりました。そこで、2014年7月4日（金曜日）の関東同窓会総会と懇親会の概要をお聞きし、93期一同10名以上でお手伝いをする準備から始めました。昨年7月4日の関東同窓会総会・懇親会には、

静中・静高関東同窓会
 会報 第80号
 平成27年12月5日発行
 編集人 八牧 浩行
 (82期)



高 印

- 1、4頁 総会・懇親会・講演あれこれ
- 4頁 「岩手ツア―」で学び語らい楽しむ
- 5頁 「東海道歩き」の勧め―歩行記を出版
- 6頁 「たかが同窓会：」 「塔」の物語
- 7頁 電子計算機からパソコンの体験記
- 8頁 女子トーク「芙蓉乃会」に参加して
- 9頁 異業種交流会「ふるさとの訛：」
- 9、10頁 「豊田先生お祝い会」「64期会」



会場受付の様子



乾杯

受付やクロークのお手伝いをして、現場の雰囲気勉強しました。

今年になってからは、2月20日の関東同窓会幹事会で15名ほどの同期が集まり、それぞれ役割分担を決め、翌月には準備状況を多賀谷会長にご報告。その後、講師のテーマもほぼ決まり、初の試みとして「里山環境と健康」というテーマと、「環境と病気、特に食の変化と疾患に関して」のダブル講演となりました。最近話題の「身体」と「心」の健康をテーマに、同期



57期 岩井先輩による乾杯



大先輩



講演に聞き入る来場者



懇親会 楽しいひととき

二人が講演をリレーする事に決めました。
春には我が静高野球部が甲子園出場を決め、東海大会での「バックスクリーン3連発」が話題になりました。そうした盛り上がりの中、準備も順調に進み、93期同期は天王洲で最終の確認会を開催しました。

更には、本番に向けて当初の15名だけではなく、広く同期に協力を仰ぐために、メーリングリストを作成し、スムーズなコミュニケーションが出来る環境を作りました。直前の6月21日には、同期の勝間田さんが工場長を務めるキリンビール生麦工場内で、会議室を借用し、最



校歌を歌えば、一気に青春時代

終打ち合わせと懇親会。準備は整いました。
当日は、多くの先輩にご臨席を賜り、更に躍進する野球部を象徴するように、野球部後援会長の阿部裕之様にも、興味深い野球部の現状をご披露頂きました。
総会・懇親会を無事終えた同期は、7月3日の晩は銀座で氣勢を上げました。同じく同期の青木さんが経営する7丁目のお店です。
また、9月5日には、協力してくれた93期同窓生仲間と、来年の幹事となる94期10人ほどで、多賀谷会長もお迎えして打上げ会を開催、開催準備の過程での

私は、これまで学生時代の同級生との集まりには、出来るだけ参加はしていましたが、それ以上の事はしていませんでした。しかし、50代になって、先輩や後輩、同期の様子を知り、お互

文書やデータを94期の皆様に引き渡して、ひとまず役割を終えました。



いに支援し合って、活動して行く事の必要性、重要性を感じるようになっていました。今回も、93期のまとめ役をお引き受けし、卒業後にあまり会話の無かった同級生との距離が縮まり、また諸先輩方との繋がりも増え、我が静高の素晴らしさを再認識しています。そして、これからも後輩に、同窓会の大切さを実感して貰えるように、尽力したいと思えます。



ご苦労様 幹事期93期の皆さん

里山環境と健康 講話を終えて

NHK「ニッポンの里山」プロデューサー

小野 泰洋 (93期)

初めての2本立てリレー講演をどう構成するか。外科医と番組プロデューサーの話をつなぐために勝又君と相談し、テーマを「環境と健康」と決めました。「体の健康は心の健やかさとうながっている」という話題から調整を始め、「大腸と食文化・食環境を巡る最先端医療」と、「心と体を活性化させる里山環境」の話を連動させることにしました。

私は、自然番組の制作が専門ですが、医学健康番組も5年ほど担当しました。心的ストレスが自律神経の失調を引き起こし、その人の体の弱い部分に病気が起きる「心身症」と呼ばれた病気が深刻化した20年ほど前です。米国のハーバード大学は早くからこの分野の研究を手がけ、自律神経のストレス反応を和らげる方法として、体をゆるめて自律神経にリラクゼーション反応を促す「呼吸法」を提唱しています。この方法は、自然番組の撮影現場で身につけた動物との接近法と近似しています。脱力しゆっくり腹式呼吸しながら「気配を消して体が空気になっ



た感覚」になると、人間が自然界に溶け込み動物を撮影しやすくなり、不思議な安らぎも感じます。自然環境との一体感と心や体の癒やしは繋がっているようです。その健康効果を得る場としてなじみやすいのが里山環境です。

里山は国立公園の様な原生自然ではありません。人が手を入れ、暮らしながら維持している二次的な自然。言い換えれば昔からどこにでもあった田舎です。そこに改めて魅力を感じ、ゆっくり身を置く方法としてお話しただのが文化生態学的な視点で風



景を眺めることです。里山の風景は環境に適応した暮らしの産物。美しい風景に出会った時、この風景は人がどうやって環境と折り合いをつけ、豊かさを維持しているかという目で見ると新鮮に見えてきます。

また、最近、里山の音も心や体の健康にいいことが分かってきました。現在のデジタル音響機器やソフトがカットしている可聴域を超える音を浴びると、脳の視床下部が刺激され、体を活性化するという研究です。その音の成分が多いのは里山などの自然界です。風景に心を癒されるだけでなく、聞こえない音を浴びる健康効果です。

2012年、富士山の世界文化遺産登録と同じ年、国連の機関が選ぶ世界農業遺産に静岡県

の茶畑が選ばれました。静岡の茶畑には草ぼうぼうの荒地地が必ず隣接しています。この草を定期的に刈って畑に敷き、保湿や肥料に役立てる伝統の茶草場農法の風景です。そのおかげで茶草場には日本古来の草原環境が維持され、絶滅に瀕する野草の宝庫となっています。他にも、独自の石積み法と樹木の利用で水を浄化しながら沢の崩壊も防いでいる伊豆のワサビ田、湧水のある所に家が点在し田んぼで

環境と病気、特に食の変化と疾患に関して

東京医科大学 消化器・小児外科分野 教授

勝 又 健 次 (93期)

私はロボット手術などを専門にする大腸外科医ですが、今回健康に関するテーマで講演することになり、卒業生の皆様が外科医が話す予防医学の話にどのような反応を示すか興味のあるところでした。外科医の世話になる前に予防医学が大切であり、環境と食が気付かないうちに疾病を招くことが理解いただければ幸いと思い、以下の内容で講演させていただきました。

生物は腸により支配されており、人間も同様でした。しかし新石器時代に定住がはじまり食が確保されると急激に文明が発

稲と水かけ菜を交互に栽培する富士山麓の農家、海草のアマモ場を生かして営まれてきた日本最古のノリの産地・浜名湖…。暮らしや文化の生態学的視点で風景を見れば、静岡県は世界に誇る自然共生文化に満ちた「里山田園県」です。その里山から生まれる食材数は日本一、美しい風景と体にいい食材は一体です。健康寿命は日本一。静岡県の里山力を見直してみてください。

達しました。人間が長寿になったのは死亡原因の要因である乳幼児の死亡、感染症克服と食生活の改善で、文明の発達と大きく関連します。日本人の食事は1975年頃がカロリー摂取のピークですが、減塩と食材の豊富さで最も理想的な食事とされています。以後は脂質が増え、糖質が減少する傾向です。近年の食生活の変化による悪しき代名詞は「沖縄クライシス」で、世界長寿地域宣言をした地域ですが、現在は高脂肪食により男性の三人に一人がメタボの状態です。逆に長野県は減塩運動を

続けたことにより近年は平均寿命が上位になっています。食は知らないうちに体に変化をもたらすため、怖いものであることがこれらの事例から知ることができます。また結核などの感染症だけでなく、消化管疾患の感染症も様々な病気を招きます。一番のトピックスは胃には胃酸があり菌は存在しないと言われている中で、ピロリ菌の存在と潰瘍・胃癌の関連です。現在50歳代の日本人は感染率50%以上ですが、上下水道の整備などにより20歳代での感染率は10%台まで改善しており、胃癌の減少と密接しています。一方大腸になると一〇〇〇種類の菌が100兆個存在しています。この密集して存在している状況を腸内フローラと呼んでいます。今まで大腸



の役割は注目されていませんでしたが、腸内細菌がエネルギーやビタミンの産生、免疫を担当しているなど重要性が解明されつつあります。腸内細菌も環境により異なり、欧米では炎症性腸疾患が増加していますが、アフリカでは認められません。腸内細菌の種類や多様性などが原因とされています。日本も1970年代から増加傾向にあります。近年増加傾向にある大腸癌も腸内細菌と肉食での前発癌物質が原因と言われており、今後は死因第1位を占めるがんの克服が課題です。対がん10年総合戦略ではがん研究の推進、がん医療の向上、がん予防の推進が3本の柱です。しかし癌の予防に対するワクチン接種または生活習慣における飲酒、野菜や果



物の摂取など啓発活動が進んでいないのが現状です。静岡県は里山が多く、温暖な気候、食も豊富であることなどが健康長寿

県の要素なのででしょうか。健康に長生きするために故郷を思いつつ生活習慣や環境改善を今一度考えてみてください。

震災から四年半 現地で様々な思い 岩手ツアーで学び、語り合い、楽しむ

関東同窓会の有志一三人による岩手ツアーが一〇月三十一日―十一月一日に行われた。現地で震災復興の活動を続けている寺井良夫氏（92期、昨年の同窓会総会で講演）を訪問すると共に、

各地では盛土かさ上げによる新しい街づくりなどの工事が急ピッチで進んでいた。しかし、地域の将来像までを含む復興の展望となると、必ずしも明確ではない。現地の方からは、厳しい現実を踏まえた声を聞き、参加者は様々な思いを巡らせた。



現地ガイドの説明に心を打たれた（陸前高田）

復興支援のNGO「Save Iwate」を運営する寺井氏からは、時の経過とともに新たな課題も生まれ、また政府による支援縮小など難問と格闘する現状をうかがった。宿では「自分では



ツアーには87期と92期の有志が参加

きることは何だろう」などと夜を徹して語り合い、励まし合い、元気を交換し、何より東北の新鮮な魚介と酒の味を楽しんだ。

かさ上げと巨大コンベア

「奇跡の一本松」で有名な陸前高田では、津波で破壊された道の駅の建物の前で、地元ガイドの實吉義正さんから話をうかがった。道の駅は一四・五メートルの津波に襲われ、多数の方が亡くなった。市は広域を被災し、一八〇〇人あまりの犠牲者を出した。実体験に基づく話は心を打ち、目頭が熱くなった。周辺では山を削る宅地造成と、その土砂を使ったかさ上げの工事が進展中だった。巨大なベルトコンベアは九月で運転を終了したが、まだ撤去されず巨大な



懇親では魚介と酒を楽しむ

難問は山積だが、訪問先では地元の方々に「明るく」「笑顔で」迎えてもらい、むしろ元気をいただいた。昼食を取った気仙沼の食堂では、スタッフが大海旗を振って見送ってくれた。

笑顔とSL

シルエットを映していた。大槌町でもかさ上げ工事の建設機械が町のあちらこちらで稼働していた。しかし、造成工事が完成した暁に、住民が戻ってくるかどうかとなると覚束ない。復興は破壊された街や家の再建だけでなく、地域の振興や経済発展と絡み合う。そんな当たり前のことを改めて痛感した。各地で多くのことを学び、考えさせられた。

大船渡の三陸鉄道・恋し浜駅前の休息所では、開店時間前に特別にコーヒーを入れてくれた。感謝、感謝。

三陸海岸から盛岡に向かうバス車中では紅葉を楽しんだことはもちろん、運転手さんに無理を言ってSL銀河号と数キロにわたり併走した。SLファンなら羨む経験に、参加者は年甲斐もなく歓声を上げていた。もりおか町家物語館では、Save I w a t e 販売のくるみのソフトクリームに舌鼓を打った。

帰路の車中で、感想を述べ合った。静岡OB・OGらしく真面目で優しく、含蓄に富むものが多かった。以下、いくつか紹介したい。

「各地のかさ上げの風景が最も印象的だった」

「修学旅行以来の団体ツアーを楽しんだ」

「近い将来、東京や静岡が被災してもおかしくない。その時何を…」

「味覚ツアー」

「行動に移すことがどれだけ大事か。寺井氏に敬服」

「ここでも、都市でも、コミュニティの大切さを実感」

「何ができるか分からないが、企画があれば参加し、お金を使う」

「地元の方々のおもてなしの心に感謝」 (87期、92期有志)

東海道歩きの勧め

道中は「発見」の連続
歩行記を本に

92期 日下 淳

静岡・静岡で学んだ皆様なら、東海道は身近な存在かと思えます。呉服町や七間町の通りは元々東海道だし、「東海道上陸栗毛」の十返舎一九は静岡市の出身。歌川広重の「丸子・名物茶屋」や「夜之雪」の蒲原を訪れた人は多いはずです。でも、東海道の他の地域は？そして、現代の東海道の姿は？

趣味のウォーキングの延長で、二〇一〇年に東海道歩きを始めました。休日を使って断続的に東から西に進み、今年五月に京都・三条大橋に無事到着。勢いで記録を取りまとめて本にし、



駿府公園・異櫓前の弥次喜多像



海岸沿いには津波警戒の標識(静岡県西端の白須賀宿付近。宿場は1707年の津波で高台に移った)

今秋出版しました。

一日二〇キロ前後を歩くのはいい運動になり爽快ですが、同時に普段気付かない様々な光景が目に入ってくるのも楽しみでした。印象的だった景色の一つが「高齢化の風景」。都会、田舎を問わずデイクア拠点や老人ホームなどが散在し、「看板の新しい」建物は携帯ショップなどと並び高齢者関連施設が目立ちました。所在不明になった高齢者の目撃情報を求める自治体の車にも出合いました。

足取りも軽くなりました。「自分も元気老人にならねば」との思いを改めて強めた次第です(そのためにもウォーキング！)。

「地方創生」の風景にも出合いました。「ゆるキャラ」や「B級グルメ」には各地で遭遇し、地域起こしのNPOや街道振興に頑張る方々とは興味深い話をしました。しかし、それが地方活性化や人口減少対策の切り札になるかといえば話は別で、課題の大きさも痛感しました。

東海道歩きを始めた翌年、東日本大震災がありました。それ以降、海岸沿いを歩くと「海抜〇〇メートル」の標識に自然と目が行くようになりました。静岡や関東でも、いつ地震があってもおかしくありません。「その時どうする」の心の備えはできているか、自問しました。

このほか国際化の現状、インフラの凄さと問題点、そして特筆すべき日本社会の安全性——東海道から見た「平成ニッポン」の風景は興味深い発見の連続でした。

それにしても、一日歩いたあとのビールの美味かったこと。道中では多くのウォーカーたちとも話をして人の輪も広がりましたし、行程の大半を同行した妻とは共



通の話のネタ(?)もできました。皆様も、健康のため、新たな発見のために東海道を歩いてみませんか。

〔東海道を歩こう 地域を見よう 日本を語ろう〕 日下淳著、講談社エディトリアル、税抜き一〇〇〇円

たかが同窓会、

されど同窓会⑪

「塔」の物語

71期 浦田 彰

某月某日、同期の飲み会「八千代会」で仲間の後藤弘枝さんから「終い支度をしていたら、こんなものが出てきたのよ」と一冊の冊子を手渡されました。なんと！懐かしい「塔」です。すっかり茶色に変色した静岡自治会発行・文芸部編集の昭和29年7月号の「塔」13号でした。ボクたち3学年の夏の発行です。集まった面々と懐かしさに声を上げながら回し読みしたのですが、まず皆同音に、あのモッチャ



ん先生が巻頭言か！しかも、「若き苦惱者の手記……彼の生命を凝視しようとした彼の祈禱に耳を傾けようとした彼の無知を覚醒しようとした……」なんて詩を寄稿してるんだぜ。あの望月亮吉先生は詩人だったのか！

目次に添って少し内容を紹介します。今は亡き永野誠和君は「星の囁き」という表題で、冒頭から

「ある女に対する抑え難い思慕の情、彼はそれを捨て去った筈なのに！もう決して現実の快楽に溺れまいと心に誓った筈なのに……」

と、若きウエイテルもどきの失恋小説を寄せているし、

宮田英世君の「鬼薊の告白」という小説の出だしは

「左様で御座います。友人野田由紀夫妻は私が殺害致しました。全く可哀想なと申せば、可哀想では御座いますが、でも其時私は反省など致しませんでした。只殺した事による犯罪への興味、快楽、自信を得た事が少々満足であるのみで御座います。でなくて、何で告白など致しましょう……」

と、後を読みたくなる本格推理小説。

詩を紹介すると、深井喜代司君の

「回転するネオンに 怪しき胸は躍る 夜の流浪を想ひ出に求め 血走った瞳は幻影を追ひ憂ひは意地と共に砂浜を駆け巡る……」

中でも凄い作品は「試み（不滅の記憶）より」という喜多尾道冬君の20ページにおよぶ戯曲です。ダンテの神曲を思わせる内容で、地獄に墜ちた元新聞記者やら元精神異常者やら元共產主義者やらの生と死とを巡って

の相剋と葛藤が5景にわたって展開され、こんな台詞も

「（元外科医）地獄でもなければ 天でもない。夢です、皆悪夢にうなされているんだ、だいたい諸君はフロイトの「精神分析入門」を読んでいるから

悪いんだ……（元新聞記者）ハハハハ、まったくそうですね、読めば一目瞭然ですね（へつらい笑い……）」

何処かの劇団が上演したら、軽く2時間を超すでしょう。

また、その日の「八千代会」に同席の酒井 力君は「小景」と題して

「城壁に囲まれた市内は、今日もまた一輪車の音で明けていった。キー、キーと重苦しい音を立てながら……」

と少年時代を送った大陸での物売りとのやり取りや中国料理との刺激的な出会いなどを創作風に3ページにわたって綴っている。61年ぶりに再会した作品に少々テレている酒井君には「ヘエー、キミは文学少年だったのか」と褒めたのか冷やかしたのか……盃を忘れたひとときでした。

「塔」には自治会報告や運動部文化部の活動報告はもちろん、詩から小説、短歌、戯曲、エッセー、ルポルタージュまで創作意欲満々！ 老眼鏡でも追えない

ような小さな活字で90ページびっしりと、それに何というレベルの高さ！ あの世代にありがちな多分に背伸びした気配はあるものの、一編々々、内容はもとより、抽象的にしろ、具象的にしろ、言葉を自由自在に駆使して作品としているサマは見事というほかはありません。編集後記のM君は、「暗陰肅々たる世相に悶絶と焦燥に遅々としてその日を没してゆく私達に何の逃避口あるうか。徒に時を刻ませて生命を縮めることをヘラクトイレスは教えたろうか……」。何やら青春の鬱屈と軒昂が同居していたあの頃のボクたちの想いがよみがえった気分です。

あれから61年を経て、白髪頭を揃えて、いまや越し方を肴にひたすら飲み且つ語るボクたちですが、「塔」の純にしてひたむきな情熱に接し一瞬シュンとなりながらも、そうだ！ この「塔」は俺たちの「塔」だ！

この「塔」の中に俺たちがいる！となり、当然、座の話題は今の高校生世代はどうなんだ、となり、過保護のお蔭で少し幼いんじゃないか、とか、ケータイやスマホ漬けでろくに本も読まないし、礼状のひとつも書けないとか、否々、静高生に限ってそんなことはない、図書館なんかでよく勉強しているみたいだ

ぜ、とか、「名門高校人脈」という本には「静岡高校は、まさに最高峰」だとされ、若い人材が輩出していると書かれているぞ、とか近頃の若者論になったというわけです。

後藤さんの終い支度？からヒョイと出てきた一冊の「塔」の物語でした。終い支度！は後藤さんばかりではないと思います。皆さんのお宅の隅にはあの頃の「塔」ばかりでなく、郷土研究部編集「郷のかおり」とか、社研の機関紙「動き」とか、創立七十五周年「記念誌」とか、高校野球山静大会のスコアとか、自治会編集「叩高新聞」とかが埃をかぶっているかもしれません。身辺整理の折りでも探し出してください。同期会などで、思い出をよすがに語り合えば座が盛り上がることを請負です。

ところで、来春の参院選挙で18歳の高校生が選挙権を行使します。文部科学省はこの度の選挙法改正に伴って、高校生の政治活動を校外に限りて許可するという通達を出しました。教育界での対応策が議論されています。母校では、どんな有権者教育が行われるのでしょうか。昭和29年夏の「塔」の社会科学部活動の活動報告には「……学生とは勉強だけをするものを使うのではない事は衆知のことだが、

勉強するのは学生としての単なる一つの要素にすぎないのである。(商業新聞を読むだけでなく)我々はもっともっと政治や社会問題を追いつめてゆく努力こそ必要ではなだらうか……自己の為社会の為に社研部に参加してくれるよう期待している」とあります……。



電子計算機から パソコンの体験記

〈上〉

73期 山梨 由記

紳士服のメーカーに就職し一年後に小生は営業部の有名百貨店担当の六人のチームに配属された。この営業を四年勤めた後内勤を命じられた。新しく設置された「コントロール課」に配属

され各種製品の生産高、社内在庫状況、得意先別の販売高を二年先輩の係長以下九人が、そろばんで集計するのであった。当時公衆電話の大きさのキャノン製の電卓が七十万円で発売され

たが高価なので会社は購入して呉れなかった。やがてカシオの電卓が現在の大きさになって発売され二台購入された。

小生はナンバーキーを見ないで右手で入力する(ブラインドタッチ)に挑戦した。当時メー

カーの主催でブラインドタッチ入力の大会があり優勝者等が発表されたのだった。その記事を読んだ後、電話帳の電話番号の四桁を50個入力した秒数を測ると優勝者とはほぼ同じ位の成績であった。社内で一躍有名になった。ある日、本屋に行き、電子計算機に関する単行本を買ってきた。自宅には持って帰らず会社の昼休み時に読んでいた。

週に二度三度と読んでいたと部長が来て「山梨が居たか、丁度良かった、集計表が出来ていたら見せてくれ」ロッカーから取り出して渡す間に部長は小生が読んでいた本の表紙を眺めていたのだった。その後も重役や部長が来て同じ様なことが毎週続いたのだった。それから数ヶ月後の朝礼で重役が言った。

電子計算機導入担当を命じる

「我社も電子計算機の導入を考えている。山梨は電子計算機の導入の担当をするように」小生の28歳の時であった。二年先輩の係長に申し訳ないと思った。重役が言うには東芝、日立、IBMを呼んで見積書を取るように言った。その前に我社の伝票類の種類や複写枚数のフローチャートを作成しなければならなかった。ロッカーの大きさほどの中に演算装置や記憶装置が

装備されその上部のガラス窓には、磁気テープが右から左へと巻かれている。それら2台が我社に導入される時が来るのか。各会社の担当者に来社を願いつローチャートを見せて見積書の提出をお願いしたのであった。月額のレンタル料金は、東芝と日立は100万円、IBMは110万円と

の見積金額だった。重役は、社員何人削減できるかと問うので、一人も削減できませんと言ったら、お前の給料の50人分だぞと言ってこの導入計画は無いものとなった。それから数ヶ月たった頃、重役が来て、日本経済新聞を見せながら、皇居前の日本商工会議所で行われる日本電信電話公社主催のデータ通信の説明会があるから聴講して来いと言った。80人以上が入れる会場

は部長、重役と思われる高年配の人々で一杯になっていた。小生29歳の時であった。説明を受け帰社して重役に説明した。ユーザは、キーボードとプリンターを借りて必要なデータを電話回線で日本電信電話公社の大型電子計算機に送信すると計算して記録して結果を我社に送って呉れるのでプリンターで受信印刷すれば良い事になりますと説明したら見積書を直ぐ取るように言われた。

公社の担当者に来社願って、

フローチャートを渡して見積を取ったら、一月当たり40万円であった。それを報告すると「契約のために来社をして貰いなさい」となり日本電信電話公社と契約する事となった。契約の時から営業担当者、システムエンジニア、プログラマーの三人体制で最後まで変らなかつた。毎週水曜日を打合せの日と決めていた。全てが揃い、テスト送信が始まり、我がコントロール課の課員がキーボードで入力してその結果の出力テストも、プリンターで確認できるようになった。「ここまで順調に電算化できたのは、山梨さんの実力ですよ」と言われたが、営業上のお世辞と思っていた。

給与計算プログラムの作成

公社の33歳のプログラマーがこう言った。「貴方の会社は750人の社員がいる会社ですからソロバン、電卓で給与計算するのは、大きな労力と正確性が必要です。で、山梨さんが給与計算のプログラムを書いてみて下さい」。小生は驚きと共に「コボル言語とフォートラン言語がありますが、フォートラン言語が適していますね」と知ったかぶりの発言をしたのだった。公社のプログラマーは、「山梨さんなら書けますよ、是非挑戦して

下さい」。小生は業務外の事から自宅であろうかなと思いついていたようだった。各人の基本給、役職手当、技術手当などの固定給をセルに入れて残業時間の変数なので、その都度計算させて源泉課税処理をして計算すれば良い。翌週の水曜日、テストランの結果と対処について打合せした後、プログラマーが「山梨さん、給与プログラムを少しでも書いてみましたか？」と言ったので、自分が鉛筆で書いたプログラムを見せた。「毎晩家で書いて見たけど」。受け取ったプログラマーは、手でなぞりながら、何度も頷いて読んでいた。「これを公社の電子計算機に乗せてみますよ、来週の水曜日に結果をお知らせします」と言い帰って行った。翌週、そのプログラマーは紙に印刷された120行の小生のプログラムを渡して、こう言った。「公社の電算機にこのプログラムを入れて、架空の社員10名の給与計算をさせましたら、間違いなく作動して計算できました。山梨さんは、凄い。これを貴方の会社に使って下さい」と進言されたら良いですよ。公社のプログラマーになりませんか」同席の営業マンとシステムエンジニアも頷いていた。



10月9日(金) 夕刻に、神田神保町のブックカフェ二十世紀(オーナー＝91期鈴木宏様)の芙蓉乃会にHPから申し込み参加しました。出席者それぞれの静

芙蓉乃会に参加して 女子トーク・ 均等法から茄子の サラダレシピまで

104期 瀬尾 敦子

給与計算の件を会社の重役に言ったら人事部の計算と電算機の同時テストを2ヶ月行い、その後、給与計算は電算化されたのだった。1967年小生29歳であった。その後日本電信電話公社は民営化されデータ通信は独立し社名がNTTデータとなった。(次号「下」に続く)
kingi-yamanashi@kingsmile.co.jp

高時代の思い出に始まり、何故か東京都豊島区に存在した静高卒女子のみ下宿可の大家さんのお話、縄文時代からの服飾史(聖徳太子像に描かれた服装は、時代考証的には太子が生きた時代からは200年ほどギャップがあるらしい)、東京都ボランティア、エネルギー教育、そして茄子のサラダレシピまで、多種多様で活発なトークがとどまるところを知らないひとときでございました。

当日は、関東同窓会顧問の八牧浩行様から、ご自身が執筆した記事「男女雇用法が変える日本の経営(月刊文芸春秋1985年11月号)」を提供頂きました。今からちょうど30年前、私にとってはまさに静高に入学した年ですが、当時の日本社会が1986年4月からの男女雇用機会均等法施行を目前にして困惑し、手探りで対応していた様子が詳しく書かれています。1986年に実際に法令が施行されて以降、女性の諸先輩方のご努力や葛藤は大変なものがあったと思います。我が身が今でも何とか社会でお仕事をさせて頂いているのも、先輩方や受け入れ体制を整えて下さった社会のおかげと改めて感謝するとともに、若い方々が今後さらに活躍できる環境作りに微力ながら協

力したいと思いました。
芙蓉乃会では、落ち着いた書店での美味しいお料理に加え、魅力に溢れたOGの皆様との嬉

世代を超えた同窓の絆 奮って参加を!!

来年1月22日に第13回異業種交流会

静中・静高関東同窓会の異業種交流会は、2016年1月22日に第13回目を開催します。毎回多くの方々にご参加いただいております。楽しく有意義なひと時を共有しましょう。
世代を超えて多くの方々にご参加いただいております。

ツイッターでも発信されています(「静中・静高関東同窓会異業種交流会」@shizukokukan)。
なお、静中・静高卒業生の皆様のほかに、「友呼び」といたしまして、同窓生の同伴を前提に、ご家族をはじめとする卒業生以外の方の参加をご依頼し、より有意義な会にして参りたいと思います。

先輩・後輩・お客様等に一声おかけ頂き、ご参加いただけたと思います。さらに交流の輪を広げていきましょう。

日時 2016年1月22日(金)
午後6時30分～9時
会場 日本プレスセンタービル

しい出会いがありました。次回もさらに多くの方々と素敵なトークができるのを楽しみにしております。

日本記者クラブ
9階大会議室
ファーストスピーチは村田吉隆さん(79期)。元国家公安委員長・防災担当大臣を務められ、今年秋の叙勲で旭日大綬章を受章しました。
会費 4千円
家族・現役学生2千円

ご参加は下記にご連絡ください。
E-mail kksamatsu-rep
@wine.ocn.ne.jp

もしくはFAX 03-3257-9820(静中・静高関東同窓会事務所)してください。

なお、前回11月23日の第12回異業種交流会では、約30人が参加。ファーストスピーチは元日本生命副社長の石橋三洋さん(77期)と三菱航空機前会長・三菱重工顧問の江川豪雄さん(79期)。金融界重鎮の石橋さんはバブルの形成と崩壊に至る日本経済の軌跡について、江川さん



11月23日の第12回異業種交流会

は日本待望の旅客機「MRJ」離陸までのストーリーについて、とても興味深いお話をしてくださいました。今回も大きな同窓の輪が広がり、有意義で楽しいひと時を過ごしました。

異業種交流会事務局

笠松 一久

異業種交流会でのひとこま

ふるさとの訛り

なつかし...

90期 山下 雅子

『〇×##*』駐車場の後方からの話声が聞こえてきました。10年以上前のこと、家族旅行中の奈良県観光地の駐車場

のことでした。ひょっとして静岡(市)出身と振り返り、会話の主の後方にあるその方の所有車のナンバーを確認すると、やはり静岡ナンバーでした。「なんでわかるの?」と、家族に驚かれたことがあります。

東北弁、関西弁といった特徴のある言葉ではなくとも、静岡出身者であれば、そう、同じ出身ならではのイントネーションがあり、独特の『訛り』があります。すまして話をしていても、「出身静岡ね!」と言い当てられてしまうことが、私自身の経験でもありました。その後は、その出身地を当てた方が、「私も実は静岡」と続いたのでした。

関東同窓会の先日の異業種交流会でも、「実は自社が調査される際、自分より若い厳しい担当者、やり取りの最中にふと、『静岡出身ですか? では、高校は?』と、『静岡です。』と話し、同窓会の先輩だと分かったと、実に一変して言葉遣いから態度まで丁寧な対応になったんですよ。」と、同窓生に纏わるエピソードの披露がありました。

「ところで、その後の調査? は」と話は及び、「対応は丁寧になったんですが、厳しさは変わらず、さすがでした。」和やかな笑い声が響きました。「同窓の先輩・後輩間でも容赦は一切ありません。」そこはさすがはプロ同士です。

ちょっとユニーク

豊田一男先生の

ご出版と喜寿を祝う会

84期 古谷 良樹

5つの高校の卒業生が発起人となって開催されたユニークなお祝いの会をお知らせします。

10月3日(土)、東京・永田町の都立日比谷高校の同窓会館「星陵会館・レストラン シーボニア」において、豊田先生が



豊田先生ご夫妻



静高82期生と

赴任した5つの高校の卒業生5人が発起人となって企画運営した「豊田一男先生のご出版と喜寿を祝う会」が開催されました。

当日は、豊田先生が英語教師として赴任した5つの高校、静岡(昭和37年〜昭和43年)、都立東高校(昭和43年〜昭和49年)、都立石神井高校(昭和49年〜昭和54年)、都立日比谷高校(昭和54年〜昭和58年)、筑波大付属高校(昭和58年〜平成2年)の卒業生に加え、筑波学院大学の教え子や職員関係者のみなさまのほか、出版にご尽力いただいた開拓社の川田出版部長、お孫さんを含めた豊田夫妻のご家族、総勢90名にお集まりいただき、著書「ジョークで楽しむ英文法再入門」の出版と喜寿をお祝いする会が開催されました。

当日は、開会宣言の後、開拓

社の川田出版部長から「ジョークで楽しむ 英文法再入門」の出版エピソードを交えた祝辞に始まり、Netに掲載されている著書の内容や書評の紹介があり、5つの高校と筑波学院大学のそれぞれの教え子代表が、豊田先生が教鞭をとられた49年間の思い出や教師ぶりなどを、スライドを交えながら披露し、なごやかに楽しく交流しました。

静岡からは、豊田先生が静岡在任中にクラス担任をした第82期、第84期のみなさまを中心に21名がお祝いに駆けつけ、代表して第82期は、富士市から駆け付けた青木繁樹先輩が、豊田先生の英語授業と自らの英語とのかかわりを、第84期は、静岡市で木工業を営んでいる本多秀一郎君が、服装が不適切な生徒を発売直前に不参加とした修学旅行の思い出を、それぞれ披露しました。

豊田一男先生は、現在は筑波学院大学名誉教授、5年後に英語の書籍出版を計画している様子。日常は、奥様と150歳ベアを組んでテニスを楽しみ、お孫さんの英語教育に励んでいるそうです。座右の銘は「Ageing is a matter of mind. If you don't mind, it doesn't matter.」(老化は気持ちの問題である。気にしなければ問題ではない)。



「いつも元気をもらおう」 64期関東同期会は 永遠なり!

64期 遠藤 栄

64期関東同期会が恒例の七夕の日、7月7日11時半から開かれた。長く会場としていた田町の「道灌かがり」が6月末で閉店したため、品川の「東天紅」に変わった。駅から数分の便利などがあるが、初めての人には入口が分かりにくく、迷った人もかなりいた。北品川の竹内君が最も近いはずだったが、30分ほど迷って遅れて会場に。

開会に先立って、世話人の野澤正憲君より報告があり、静岡の同期会は昨年をもって終わったとのこと。さて、関東はとい

う問いかけだった。「毎年この七夕会を楽しみにしている」「この会でいつも元気をもらって帰る」などの意見があり、全員が存続に賛成した。そのため健康でいようと乾杯した。

例年の如く佐野旭君の司会で近況報告。以前は「孫と病気の話しはしないこと」という注文がついたが、今回は制限なし。さすがに80歳代半ばになると孫の話は出ない。もっぱらつれあいや自分の健康、とにかく歩くというが多かった。

今回、村上崑代二君が懐かしい写真を配布してくれた。級友が署名した日章旗の写真だった。村上君が予科練に入隊するときに贈られたものだという。すっかり忘れていた人も多かったが中学生時代に署名した墨痕鮮やかな自分の名を発見して納得。村上君たちがおそらく予科練最後の生徒と思うが、幸いこの日章旗を体に巻いて出陣することになった。

今回の出席者は12人だった。このほか2人から出席の連絡があったが、ついに現われなかった。我々の年代になるとよくあることで、日付を間違えた、忘れていた、特に今年は会場が変わったのでつい従来の会場に行き、「休業」の看板に帰ってしまったのかも? いろいろ類推

した。世話人にはご苦勞をかけるが、今後は、直前の確認が必要かもしれない。

『冬の総会』幹事会を 2月19日(金)に開催

第4回「古書コミ」も行います
ごぞって参加を!

静中・静高関東同窓会の各期幹事会を開催します。『冬の総会』に位置づけられる会合で、楽しく有意義な会です。各期ごとに多くの同窓生のご参集をお願いします。

14年7月の総会からスタートしました「古書コミ」の第4回も併せて実施します。

日時 2016年2月19日(金)
午後6時30分～8時30分
会場 日本プレスセンタービル
日本記者クラブ9階会場
会費 3千円

ご参加は各期幹事、もしくはFAX 03-33257198
20(静中・静高関東同窓会事務所)まで。各期幹事の皆さん、多くの同期生をお誘いください。

「協力ありがとうございました」

7月実施古書コミ報告・3855円

7月の関東同窓会総会で、昨年に引き続き『古書コミ』を開催しました。本を通じて、同窓生をつなぐ、つなげる活動です。総会の場で、同窓生の本と持参本を交換し、読み終えたら、次年総会に持参、更に交換してつないでいきます。また、寄付いただいた本については、換金の上、静岡高校に図書券として贈り、後輩へとつなげるコミュニケーション活動です。

【2014年度の同窓会会長からの贈呈の模様は、6月79号会報をご覧ください】

今回は、その金額も3,855円になりました。平成28年2月19日(金)開催の各期幹事会でも実施予定です。本を一冊携えての各期幹事会のご参加もお待ちしております。

ちなみに私は、今年は『現在美術・入門』若林直樹著と交換しました!!
(90期 山下 雅子)

キリンホールディングス株式会社

特別顧問 加藤 壹康 (80期)

本社 〒164-0001 東京都中野区中野四丁目10番2号
中野セントラルパークサウス
TEL 03-6837-7016 (秘書室)

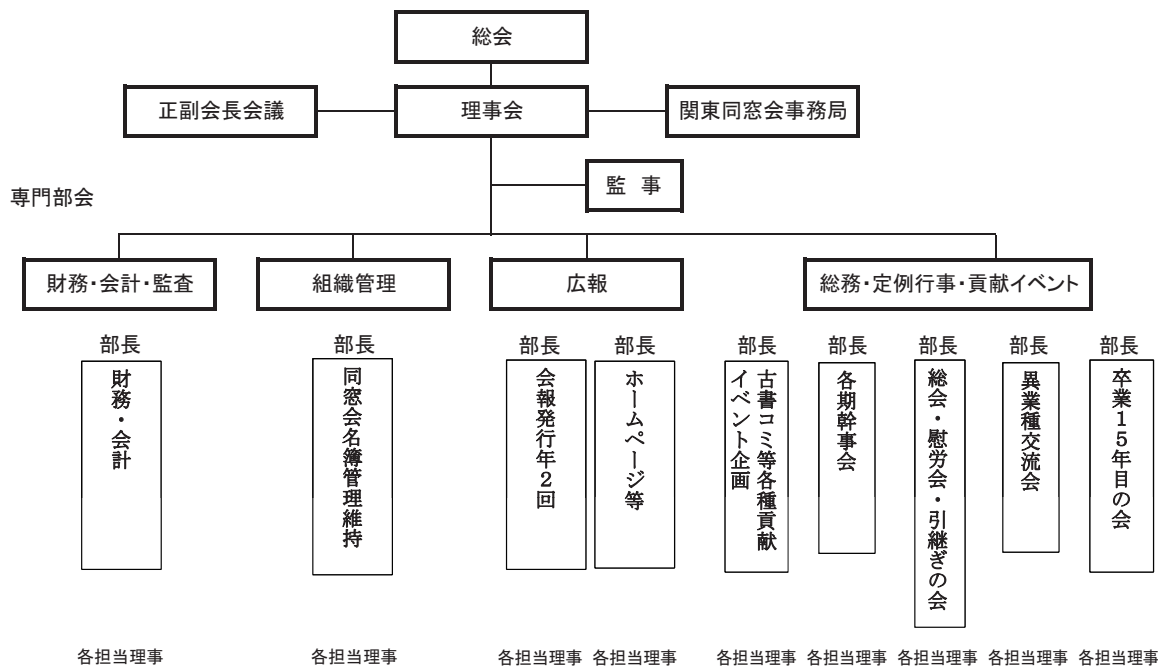
幼児教育に新しい風を



代表取締役 久野泰可 (83期) 取締役 久野淑子 (83期)

本部 東京都渋谷区恵比寿西1-20-6 K&S恵比寿ビル7F
TEL 03-3463-3815

同窓会組織図



「静中・静高関東同窓会組織図」を作成
静中・静高関東同窓会では、スムーズな運営とさらなる発展を図るため、以下のような「同窓会組織図」を作成、理事会で決定しました。よろしくおねがいします。

編集後記

1月22日の次回異業種交流会ファーストスピーチの村田吉隆先輩と私が出会ったのは40年以上前の大蔵省です。課長補佐と駆け出し記者の関係。「ふるさとの訛」から静高同窓であることが分かったのです。(八牧)

2016年度関東同窓会・懇親会

7月8日(金)に日本プレスセンターで開催！
午後6時より、日本記者クラブ10階大ホール(例年と同じ会場です)
多くの同窓生の皆さま、是非ご出席ください。幹事期94期

◆原稿・写真を募集します！

静中・静高関東同窓会の本会報(年2回6月、12月発行)とホームページ(随時更新)は、同窓生と関係者が老若男女問わず行き来する「情報広場」「ニュース交差点」です。関東での同期会等の開催、同窓生参加イベント、同窓生の活躍ぶり、エッセイなど、お気軽に投稿してください。ファイル添付で以下のメールアドレスにお送りいただければ幸いです。郵送の場合は左記関東同窓会宛にお願いします。

会報は

yamaki@recordchina.co.jp(八牧)

ホームページは

isikawa@yu-to.jp(川)

静中・静高関東同窓会事務所

東京都千代田区神田鍛冶町

31713 数下ビル6F

野方法律事務所内

Lighting For Your Safety

Koito

<http://www.koito.co.jp>

安全を光に託して

人とクルマの安全は私たちの願いです。
グローバルサプライヤー 小糸製作所

【本社】東京都港区高輪四丁目8番3号 TEL:03-3443-7111
【工場】日本、USA、UK、チェコ、タイ、インド、中国、メキシコ 他
小糸静高会 会長 大嶽隆司(74期)

鈴 与 株 式 会 社

代表取締役会長兼社長 鈴木与平 (76期)

〒424-8703 静岡市清水区入船町11-1
TEL 054 (354) 3015 (秘書室)
京浜支店 〒140-0013 東京都品川区南大井6-25-3
ビリーヴ大森5F
TEL 03 (6404) 2100

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役会長 岩井平一郎 (57期)

本 社 〒422-8004 静岡市駿河区国吉田3丁目1番1号
TEL 054 (262) 1111(代)
東京支社 〒104-0031 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F
TEL 03 (3272) 4651 (代)

建築・不動産活用、アート活動などのご相談はどうぞ

ArchitectS Office & Gallery

一級建築士 石川雅英 (94期)

若いクリエイターの支援活動をしています

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町 16-16
T 03 - 5 8 4 7 - 7 7 8 5
F 03 - 5 8 4 7 - 7 7 8 8
architectsoffice@cotton.ocn.ne.jp
w w w . r v s t o n e . c o m

お茶の心を伝える

愛 国 製 茶 (株)

代表取締役会長 馬場 泰男 (64期)

本 社
東京都新宿区西早稲田3-7-9 TEL 03-3207-1611(代表)
高田馬場店
東京都新宿区高田馬場4-12-7 TEL 03-3363-6611(代表)

同窓会で人の輪を!!

野 方 重 人 法 律 事 務 所

弁護士 野方重人 (77期)

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3
敷下ビル6F
(TEL) 03 (3251) 2348
(FAX) 03 (3257) 0820

24時間! ニュースを通じて「世界平和」に貢献する

Record China

日本最大の中華圏情報サイト(日本語)

Record Japan

中華圏最大の日本情報サイト(中国語)

代表取締役社長・主筆 八 牧 浩 行 (82期)

本社 東京都港区新橋2-20-15 新橋駅前ビル1号館7F
TEL 03-3573-7501(代) FAX 03-3573-7503

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥 巢 修 税 理 士 事 務 所

税理士 鳥 巢 修 (89期)

OSAMU TOSU

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17
TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848
E-mail: tosu@mtj.biglobe.ne.jp

* 昼 2 時より夜11時まで診療 *

医) 名泉会タカラ歯科診療所

代 表 ^{ワラ シナ アキ オ} 藁 科 名 雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩 5 分

TEL 0120-376-480

FAX 03-3710-8847

〒153-0051 目黒区上目黒 2-18-13

みんなでわいわいガヤガヤと

ブックカフェ 二十世紀

コーヒーと軽食、夜はワイン他
貸切パーティー承ります

鈴木 宏 (91期)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5-4 2F
TEL 03-5213-4853

古本売買 出張買い入れ ご相談

二十世紀記憶装置

@ワンダー

鈴木 宏 (91期)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5-4
TEL 03-3238-7415
フリーダイヤル 0120-154-727

